

日本映画衛星放送株式会社 第32回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 25 年 3 月 12 日 (火) 15 時 ~ 16 時
2. 開催場所 : 東京都港区赤坂 2 - 17 - 22 赤坂ツインタワー東館 15F
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名
出席委員 (順不同、敬称略): 菊地 実・川本 三郎・坂井 保之・鈴木 嘉一・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
- 放送事業者側出席者 : 代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 酒井 彰
編成制作部部长 宮川 朋之
編成制作部担当部長 澤 尚志
編成制作部 古林 俊祐
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題 (1) 審議事項

「時代劇専門チャンネル」において、2月にスタートした「料理昔ばなし ~ 再現! 江戸時代のレシピ~」、3月にスタートした「殺陣師列伝 ~ 知られざる殺陣の世界~」といったドラマ以外のオリジナル番組に関し、内容及び週替わりレギュラー番組として放送していることについて。

(2) 報告事項

「日本映画専門チャンネル」において、実相寺昭雄監督作品「曼陀羅」を、2013年4月編成より R-15 作品として放送すること。

5. 議題 (1) 概要

「時代劇専門チャンネル」では、2月9日(土)19時より週替わりレギュラー番組として「料理昔ばなし ~ 再現! 江戸時代のレシピ~」(全8回)を、3月3日(日)21時より「殺陣(たて)師列伝 ~ 知られざる殺陣(チャンバラ)の世界~」(全10回)をスタートさせた。ドラマ番組の間を埋めるミニ番組ではない、こうした長尺のオリジナル情報番組を見やすい時間帯を狙ってレギュラーで制作・編成する流れは、当チャンネルとしては比較的新しい取り組みであり、今回番組をご覧頂き、ご審議頂くことで、今後の番組制作や企画開発の質的向上をしていくための参考とさせて頂きたいと考えている。

6. 審議内容

「料理昔ばなし ～再現! 江戸時代のレシピ～」について

- ・番組に出てくる料理が美味しそうで、批評として見るのを忘れた。家族もすぐ作りたいと言っていた。番組としては、それで十分成功。レギュラー放送するのも当然だ。
- ・食に興味の無い人はいないので、レギュラー番組として定着させるには良いテーマ。時代劇専門チャンネルの料理ドラマとして、歴史知識が入ってくるのは面白い。
- ・江戸は当時世界有数の大都市で、文化的にも爛熟している。楽しみながら番組を見て、江戸と現代との接点に気づかせるのは、時代劇専門チャンネルのやるべき仕事。レギュラー番組として良い。また、池波正太郎関係の料理番組を作ってもよいのではないか。
- ・料理の蘊蓄や歴史は退屈になりがちだが、楽しく見た。ただ、番組の構成には感心しなかった。また、料理だけでなく、食文化にもっと配慮して欲しい。
- ・この番組のドラマの部分は、必要無いと思う。しかし、江戸文化は素晴らしく、この料理番組に限らず、江戸文化全体を取り上げた番組を作っていけばいい。
- ・食文化情報には、教えられるところがあった。ただ、もっとテーマを掘り下げるべきだ。また、料理という本来のテーマからして、ドラマ的なエピソードが余計に感じられる。
- ・食べ物に関する雑学が豊富で楽しめた。中央ブロックの「今昔みやげ探訪」で、今も営業が続く老舗の紹介を見て、行ってみようという気になった。ただ、構成がやや不自然。
- ・オリジナル番組のしっかりした枠を持つことには賛成だ。ホームページが非常に充実していることも褒めておきたい。だが、番組の中身を更に充実させて欲しい。

< 事業者回答 >

- ・料理番組といっても、時代劇専門チャンネルの番組であり、視聴者は時代劇を期待している。見てもらうための仕掛けとして、ドラマ的な演出があった方が良く考えた。
- ・オリジナル番組はコストが重く、この番組は2次利用を前提に考え、短いブロックに分けた。そのために、コーナーを無理矢理くっつけたように見えたかもしれない。
- ・「鬼平犯科帳」などの料理をクローズアップする料理番組を、「池波正太郎の江戸料理帳」というタイトルで現在制作中。4月から放送予定。

「殺陣(たて)師列伝 ～知られざる殺陣(チャンバラ)の世界～」について

- ・時代劇作りというのは、特殊な専門性の求められる世界。そうした“時代劇の匠”を取り上げて、光を当てていくことは、意味あることだ。
- ・細部が面白かったが、もっともっと細部を聞きたいと思った。また、番組中殺陣師が言っているのは、日本のOJTのあり様。そんな意味でも興味深かった。
- ・殺陣師の素顔や有り様を映像で紹介するのは、有意義な試みだと思うが、番組導入部のドラマが面白くない。また、生々しい殺陣をイメージして見たが、そうではなかった。
- ・裏方にスポットライトを当てることに意味があるのかを問いたい。三船や仲代のチャンバラを皆見たいのであって、殺陣師のチャンバラを見たい訳ではない。

- ・時代劇の殺陣に着目したのは非常に良いことで、殺陣や殺陣師を抜きに時代劇は語れない。ただ、もっと突っ込んだ話を聞きたかった。また、ドラマ部分は要らない。
- ・今回殺陣の工夫なり技術を見て感心した実際の時代劇は、映像的な効果や、効果音などを加えて成立している。そういう部分も含めて解説してみてもどうか。
- ・番組に登場した殺陣師の殺陣のつけ方が違って、面白かった。また、殺陣師の清家さんの説明は分かりやすかった。ただ、時代劇の華は確かにチャンバラだが、韓流時代劇に比べると派手さが無く、残念に思った。
- ・殺陣師の差異が分からなかったし、解説を聞いて「勉強になった」という感覚が無い。そこは、「料理昔ばなし」と違うし、番組として疑問符が付いた。

< 事業者回答 >

- ・裏方にスポット当てると、視聴者には敷居が高いと思われ、導入部のドラマでそれを下げる狙いだったが、2つのパートが上手繋がらなかった反省はある。
- ・殺陣師が解説する伝説の殺陣、といったような切り口で、もっと映像作品の中の殺陣について真正面に捉えた方が、専門チャンネルらしかったかもしれない。
- ・両番組とも、知的エンターテインメント情報番組を作ろうとしたが、安きに流れている。徹底的に掘り下げれば絶対面白いのだが、詰め方が足りない。
- ・やや志が低い番組になってしまった。もっと独創性のあるものを作ろうという意思が必要。テーマの本質を根本から問う姿勢があれば、殺陣を考える時、人を斬る凄さが出て、もっと怖くも出来るし、もっと面白い番組にも出来た、という自省の念がある。

7. 報告事項

実相寺昭雄監督の映画「曼陀羅」(1971年 映倫指定[成人映画])を、日本映画専門チャンネルで4月に放送する。従来深夜帯に放送してきた作品だが、改めて厳しく考査した結果、性表現の回数や、強姦シーンが繰り返し登場する点などを重く見て、R-15相当と判断した。放送に当たっては、R-15と表示し、22時以降にペアレンタルロックをかける。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、2013年5月14日開催。

(以上)